

あなたの悩みに答えます

田中澄江・愛の人生相談

田中澄江

№.1 BOOK

読者のみなさまへ

この本はわたしたちの暮らしの中からうまれました。はたしてほんとうに、みなさまのお役に立つか、忌憚のないご意見をお聞きかせ願えば幸甚です。

ナンバーワン・ブックスはこれからもみなさまの「ビジネス、教養、娯楽」にかんする豊かな知恵と斬新なアイデアを反映させながらみなさまとともに一歩一歩前進してゆきたいと願っています。

編集部

田中澄江・愛の人生相談

あなたの悩みに答えます

1969年 6 月 15 日 第1版発行

定価 300 円

検
印
す
を

著 者 © 田 中 澄 江

東京都中野区野方 1 の25の7

発 行 者 佐 藤 千 晴

印 刷 所 慶昌堂印刷株式会社

製 本 所 山晃製本株式会社

発行所 株式会社 明 文 社

東京都豊島区巣鴨 2 の40 第2 森川ビル

電話 東京 (918) 7651~3 番

郵便番号 170

振替 東京 76964

落丁・乱丁本はおとりかえいたします

書籍番号 N—005



NO.1 BOOKS

あなたの悩みに答えます

田中澄江■愛の人生相談

田中澄江

明文社

身の上相談ということ

私は若い時に、同年輩の友よりも、年長者とつきあうことを好んだ。

もちろん、同じ年頃の友達ともよく遊んだが、自分より一年でも早く生まれたひとには、一年だけの経験のゆたかさがあつた。

二年、三年、五年位の年長者は、自分が生きて来た日々の、すぐ前を歩いていったのだから、何かと話題も同じであつて、しかも、自分の知らない、いろいろの知識を与えてくれる。

学校へいっても、よく先生のまわりをうろうろして、できるだけ質問し、本の名を教えていただき、自分の進路についての適切な助言を求めたものである。

友達の中には、年下と遊んだ方が、気がおけなくてよいというものもあつたが、私は年下は自分よりも物を知っていないので、つまらないと思った。

こんな話を始めたのも、よく身の上相談などをたのまれるようになったからである。昔、子供の時に、先輩から、いろいろと教えてもらった恩を返さなければと思うのだが、じつはこの仕事、あまり好きではない。長くつづけるほど重い気もちになってしまふ。

何しろ、どの投書も、一つとして、自分は仕合わせだと、訴えるのではなくて、困った、苦しいと告げているものばかりである。

医者が、それぞれの病状に応じて処方箋を書くように、その文章に対して、それぞれの自分の意見を述べなければならぬ。

いずれも思いあまった末に、他人に窮状を話しているのであるから、どれもこれも、思わず吐息、溜息をつかされるようなものがたくさんあり、さて、どう返事をしてよいかと、すぐには名案が浮ばず、とつおいつ考えこんでしまう。

本書の中に集められたのは、そのようにして、やっとの思いで答えたものばかりであつて、読み返して、自分の、その時その時の苦勞を思いかえしてなつかしいほどである。わずかな枚数の答えであつても、一晩かかってようやく一つだけというのもあつた。しかし一方に、また、なぜこんなことを引きおこしてしまったのかと、少なからず、腹だたしいものもあつた。

自分が当事者でもあるように、時にはおこってみたり、恨んでみたりもするので、とかく、身の上相談という仕事は、とても長くはつづけられないと思った。

くたびれ果ててしまうのである。

それだけに、一生けんめい考えたともいい得るのかもしれないが。

さて返事をするものは、そのようにして夢中になって書いたり、考えたりしたのだが、書いたひとはどんな気もちでいるのか。これは私だけでないようだが、難問を解きほぐそうと懸命につとめて、相手からその後の結果について報告を受けたひとはあまりいいようである。

そうしてみると、書いたひとは、書いただけで、気がすんでしまったのかもしれない。あるいはまた、実生活の中の問題をより誇張して、その悲劇性を自己満足的にとらえたものが多いのかもしれない。

とまれ、この、身の上相談というものは、戦前から、新聞、雑誌の上で扱われたが、戦後は特にさかんになって、読みものとしても読者に、他人の生活の困難を通じて、自分の生活をかえりみる材料を与えているようである。

また、いつ、いかなる世であっても、他人の生活を話たがるのが人間の興味のつねなのかもしれない。

とまれ、私は、この本の中の材料をよせて下さった投書者、投書をうまく整理して下さい。つた新潟日報の石川みや子さんには改めて誌上を通じて御礼申上げたい。ねがわくば、この投書をよせた時点よりも、すべての方が仕合わせになつておられるように。

なお、身の上相談などをしていけると、見知らぬ方からよく直接の投書をいただくのだけれど、これは私だけでなく、たいていの解答者が、直接の答えはお出ししていないようである。私もまた、新聞、雑誌のその仕事としての身の上相談以外には到底、その重任に耐え得ないものである事をここに申し添えたい。

一九六九年六月

田中澄江
たなかすみえ

田中澄江 ■ 愛の人生相談

目 次

第1章 人生に目的をさがす

《あなたへ
贈る言葉》

絶えずかえりみ、絶えずたしかめながら

1 何を目的に働いたらよいか

2 四年も家業の出前持ち

3 飼い殺しの一生はいや！

4 看護婦の道に反対する両親

5 自立したいが、両親が反対

6 兄たちの犠牲で灰色の青春

第2章 苦しみを越える愛

《あなたへ
贈る言葉》

本とうの愛とにせの愛

34 33 30 28 26 24 22 20 18 17

私の好きな言葉
ほがらかに死んでゆくために、
わたしは生きようと思う。
——ゲレルト

私の好きな言葉

愛とは、他人のために、自己の生命を
投げうって悔いのないこと。

——トルストイ

第3章 愛のよろこびとかなしみ

- | | | |
|---|----------------|----|
| 1 | 妻あるひととも知らず恋仲に | 36 |
| 2 | 婚約者から手紙もこない | 38 |
| 3 | 妻子ある彼と同棲生活 | 40 |
| 4 | 急に冷たくなった恋人の態度 | 42 |
| 5 | 婚約者に過去を中傷する手紙 | 44 |
| 6 | 妻子あるひとと恋愛中の妹 | 46 |
| 7 | 男にだまされて泣くホステス | 48 |
| 1 | 一人の男を愛せない高校三年生 | 54 |
| 2 | まじめな交際なのに父が誤解 | 56 |

《あなたへ贈る言葉》 眞実の愛を生きるには

私の好きな言葉

愛されるというのは、ほろびること。

愛するというのは、ほろびないこと。

——リルケ

第4章

たつた一度の愛のために

3 成績はビリ片思いに悩む女高生

58

4 自動車学校の先生に恋心

60

5 恋心を察してくれない彼

62

6 就職したら急に異性が気になる

64

7 婿になるのをいやがる彼

66

《あなたへ贈る言葉》愛の座の栄光を得るために

70

1 婚約を断わり、恋人と結婚したい

72

2 玉のコシか、思い出の彼か

74

3 結婚の相手にはどちらがいいか

76

4 占いで結婚に反対する両親たち

78

私の好きな言葉
恋とは自己犠牲である。
——トルストイ

第5章 許されぬ愛の悩み

《あなたへ
贈る言葉》

女の誇りにかけてやめてもらいたいもの

5 弟の自立まで結婚を待つべきか

80

6 結婚相手の下宿にオールドミスが

82

7 鼻もちならぬ婚約者の性格

84

8 見合い後、はつきりしない彼

86

9 気づまりな婚約者の「無口」

88

10 復縁を迫られて迷う女心

90

11 いやがらせの電話に悩む婚約中の娘

92

12 結婚の相手に両親が反対

94

13 婚約者の彼と一致しない趣味

96

100

99

私の好きな言葉

女ごころは、
男ごころよりも清らかなものである。
ただ男よりもよく変化するだけだ。
——O・ハーフサード

第6章 愛と青春の孤独

1	不倫な関係を断ちたい	102
2	子のない寂しさについてよろめく	104
3	後妻と長男があやしい関係	106
4	愛人を子供に気づかれる	108
5	妻子ある男性にひかれる若妻	110
6	病夫を避けて行動的に生きる妻	112
《あなたへ 贈る言葉》	親しい友のありがたさ	116
1	ひとりぼっちの女子高生	118
2	高校時代の彼と別れるつらさ	120
3	育ての親にじやまにされる	122
4	男生徒が手紙や、いやがらせ	124

私の好きな言葉

この世にもっとも強い人間とは、
孤独をおそれぬひとである。

——イブセン

第7章 人生を生きぬく力

《あなたへ
贈る言葉》

心を支えた自分自身への誇り

- 5 無二の親友と一年も仲たがい
- 6 姉の犠牲で進学したくはないが：
- 7 勉強か花嫁修業か：進路に迷う
- 1 裏切られたOL生活の第一歩
- 2 しつこい上役の態度が気になる
- 3 お店、家事と休む間のない店員
- 4 ぼくの部屋に女を連れ込む上役
- 5 がまんできない先輩のハイミス
- 6 見返してやりたい横暴な課長

146 144 142 140 138 136 134 133 130 128 126

私の好きな言葉

人は人 吾は吾なり とにかくに
我が行く道を 吾は行くなり

——西田幾多郎

第8章 人生の重荷に耐える

7 残業の連続で、娘の健康が心配

《あなたへ贈る言葉》 同情よりも手きびしい言葉こそ

1 家計をまかせてくれない姑

2 食事の買い物をまかせてくれない

3 口うるさい妹の家に居づらくなった

4 主人の弟の同居を頼まれる

5 病気の妻につらくあたる母

6 姑との仲が悪く離縁寸前の娘

7 私の同居が姉夫婦の争いの原因に

8 同居人のことでつらく当る夫

私の好きな言葉
人間が不幸なのは
自分が幸福であることを知らないからだ。
ただそれだけの理由なのだ。
——ドストエフスキ

第9章 曲がり角の青春

《あなたへ贈る言葉》 忘れてはならぬ謙虚さ

1 長男に親切な隣室のホステス

2 悪友にそそのかされる二男

3 息子の机からいかがわしい写真

4 「バー」で働くという末娘

5 高校生の長女に盗癖

6 勉強も勤めもきらいな長男

7 息子のバーの飲み代、払うべきか

8 異性から旅に誘われた娘が心配

第10章 人生の苦悩を越えて

《あなたへ贈る言葉》 愛さずにはいられない心

192 191 188 186 184 182 180 178 176 174 172 171

私の好きな言葉

友情はたえず修繕をおこたらぬように
しなければなりません。

——サミュエル・ジョンソン

第11章

夫婦、この愛と真実

1	《あなたへ贈る言葉》やりなおしのきかぬ道	214
2	夫に愛人：妻の座も不安な毎日	212
2	子供を生むなという夫	210
6	多忙な父の深酒が心配	209
7	賭けごとに夢中な父が心配	206
5	いかかわしい雑誌を放置する夫	204
4	婚期を考え、就職に反対する母	202
3	見えつぱりで嘘つきの母	200
2	一日中どなり散らす母親	198
1	私だけに暴力をふるう両親	196
		194